

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート



English 4skills

【事業者名】

株式会社NTTドコモ/株式会社Libry

【ツール名】

English 4skills/Libry・Libry for Teacher

【ツールの機能分類】

オンライン語学学習/
学習支援・授業支援 (LMS)

2022年2月



Libry

■ EdTech ツールの概要



学校向け英語4技能オンライン学習サービス **English 4skills**

英語4技能の学習をオンラインで行い、
英語の検定試験対策も行える学校向けサービスです。
※PC・タブレット・スマートフォン対応

生徒用機能

レベルチェックテスト

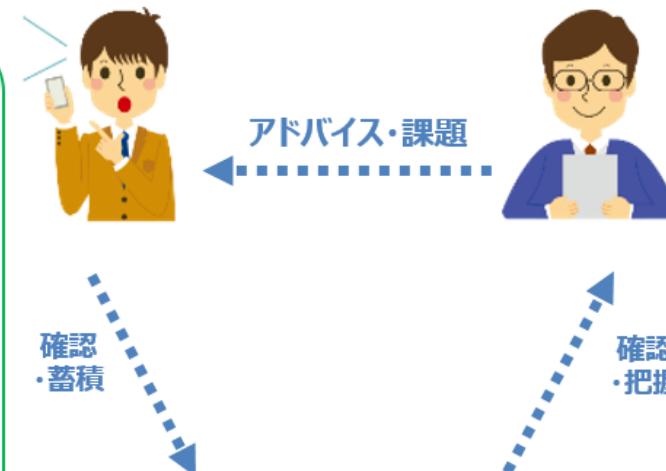
英語4技能の実力が
すぐに測定できるテスト

オンライントレーニング

4技能がオールインワンになった自
動採点のトレーニング

民間検定試験対策 (オプション)

英検などの検定試験対策が
できる模擬問題



先生用機能

オンライン課題配信

宿題を一斉配信
英検予想問題もプリント

自由課題

英検予想問題

トレーニング・テスト

授業支援

CEFRレベル別動画100本
ワークシート(字幕・小テスト)付き

Point 1

アダプティブな演習と
レベルチェックテストで
生徒のレベルに合わせた個別最適学習！

Point 2

生徒の学習の継続につながる
先生の見守りをサポートしながら
稼働も削減！

Point 3

英検などの模擬問題による
英語の検定試験対策！

※EdTech導入実証事業においては民間検定試験対策（オプション）は未提供

■ 学校等教育機関の抱える課題

①遠隔・オンラインの学習環境への対応

GIGAスクール構想はじめとしたICTツールの普及に加え、昨今の新型コロナウイルスの影響からも、学校に通えず自宅等にいる状況であっても学びを止めることなく、いつでもどこでも場所を選ばない新たな学び環境への対応が必要

②個別最適な学習への対応

発達障害や日本語指導の必要可否、特異な才能を持つ子どもなど多様な児童・生徒が誰一人取り残されることがない社会のために、能力に応じた異年齢・異学年集団の協同学習のような年齢や学年ではなく、児童・生徒の能力に合わせた学習環境の提供が必要

③先生の働き方の改善

教員勤務実態調査などからも、定められている勤務開始・終了時刻をオーバーしている実態が取り上げられるなど、世間でも「教師＝多忙で大変な職業」と認知される程、教職員の働き方改革は急務



「English 4skills」の導入で…

①

PC/タブ/スマホ対応で
学校内外問わずいつでも
どこでも学習可能！

②

豊富なコンテンツとAI技術
等により生徒個々の最適な
学習を実現！

③

課題作成・配信/自動採点/
成績管理等も楽々で先生の
業務負担を軽減！

枚方市内の中学校

【自宅学習での活用事例】

- ・その週の授業で学習した文法についての問題を20分程度に設定して課題を配信
- ・中学1年生ではまだ習っていない単元も多いため未履修でも取り組めるSpeakingの課題も配信

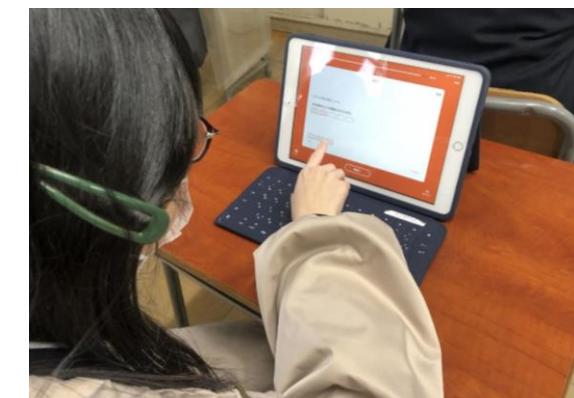
【効果】

- ・日常的に課題を配信することでEnglish 4skillsの存在を意識するようになり、課題以外にも生徒が自発的に自学自習にも活用するようになった
- ・ゲーム感覚で楽しんでアプリを使った学習に取り組んでいる



【授業内での活用事例】

- ・英語の授業に毎時間最初の5分に課題を「アダプティブ」に設定して配信
- ・今日はSpeaking、今日はListeningというように配信する技能は毎回変更



【効果】

- ・授業の進捗ではなく生徒の習熟度に合わせた課題に取り組むことができた
- ・文法問題をする時は静かに、Speakingの練習をする時はにぎやかにメリハリをもって取り組むことができている

■ 補助事業において実施したサポート内容

【サポート体制】

- ・サービス主管部の本社社員：オンラインサポート、問い合わせ対応
 - ・全国エリア担当の支社、支店社員：現地訪問サポート、問い合わせ対応
- ※コロナ禍で東京本社から訪問するのは憚られる情勢であったが、全国の支社支店と連携し、遠方含む全国の学校に訪問サポートを提供

現地訪問した社員(上段中央)がオンラインで接続



【実施したサポート】

初期設定・セットアップ

- ・利用者もしくは導入先の管理者が行う各種設定を代行
 - ・学年、クラス、グループの事前設定、利用者情報の一括登録、等
- ※利用開始前に実施していただく設定を、本事業に於いては円滑な利用開始を目指し代行実施サポート

操作・利用方法等についての導入研修/利活用促進研修

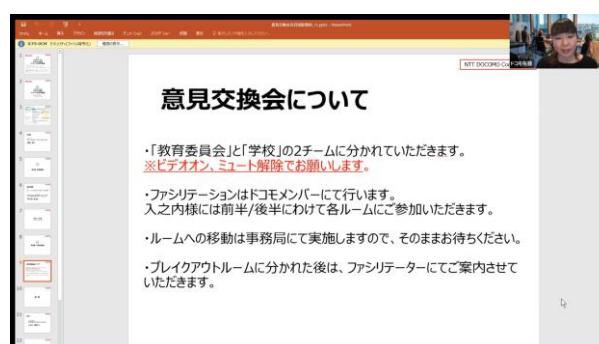
- ・実際の画面操作を行いながら操作方法のレクチャー
 - ・課題の作成・配信、成績管理画面の見方、生徒の利用する学習コンテンツの体験、等
- ※要望のあった学校には追加研修を実施し、より具体的な活用方法について紹介

その他

- ・定例会開催による自治体・学校・事業者の3者による活用の進捗確認と振り返りの実施
- ※定期的に学習利用状況データ等を提示し、課題や要望等を確認した上で3者それぞれが必要な行動をすり合わせ

■ 補助事業において実施したサポート内容

● 実証自治体、学校を集めての情報共有・情報交換のためのオンライン意見交換会を開催



【実施概要】

- ・2021年12月11日（土）
- ・オンラインミーティング形式
- ・希望者のみ参加
- ・EdTech専門家を招いての講演と参加者同士のグループディスカッション
- ・事前に全参加校にアンケート調査を依頼し、課題などを洗い出し、情報共有

【目的】

EdTech実証に参加中の自治体・学校を対象にEdTechの現場活用の最新の情報提供と交流の機会を提供

【参加者】

8名（自治体4名・学校4名）

【講演者・ファシリテーター】

平井聰一郎氏（文部科学省ICT活用教育アドバイザー）

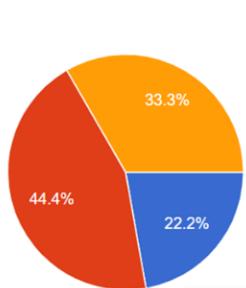
入之内昌徳氏（茨城県教育庁 学校教育部 義務教育課 指導主事）

NTTドコモEnglish 4skills担当（奥野・川本・吉永・佐藤）

■ 補助事業において実施したサポート内容

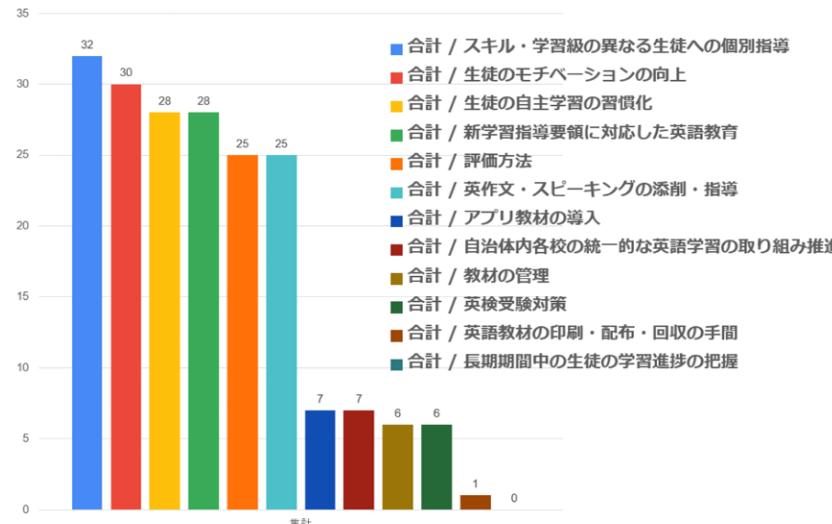
●意見交換会の事前アンケートの結果共有 (n=83)

意見交換会でディスカッションしたいこと



- English 4skillsの活用方法について（授業での活用、家庭学習での活用、英検対策など）
- 英語教育の現場の課題について（教員の稼働削減、生徒の個別指導・自主学習の習慣化、教材管理など）
- 英語教育推進全般に関する課題について（新学習指導要領の実施、アプリ教材の導入、自治体内各校の統一的な取り組み推進など）

英語教育で課題に感じていること



これまでに取り組まれた効果的な英語教育の取り組み

【教育委員会】

- 小中合同研修での学習内容の共有
- 町による英検受験料の補助

【学校】

- Googleサイトをポートフォリオとして活用し、授業の終わりに本時に学習した内容を簡単にまとめさせている。また、次時の導入では自分のサイトを振り返り、本時のめあてに繋げる等の活用もできる。生徒自身が自分の学びを整理整頓でき、評価のしやすさにも繋がる。
- Keynoteを使っておすすめの国や動物について紹介する活動
- 遠隔授業による他校との英語でのコミュニケーション パフォーマンステスト
- Small Talk（既習事項を使って話す活動）
- 授業のスモール・トークを、家庭学習で取り組ませ、タブレットで添削をする。
- ALTとの会話練習
- フォニックス
- 語彙力を高めるために毎週単語連記

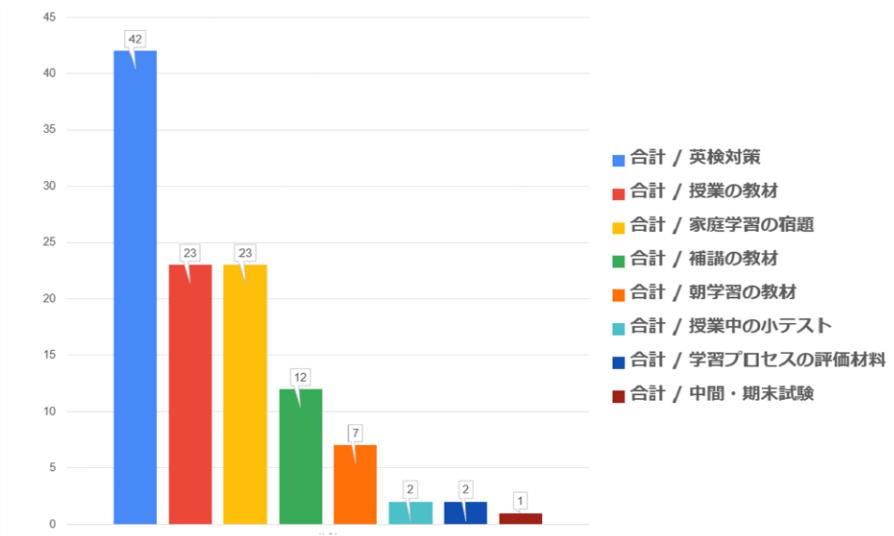
STEAM教育

アクティブラーニング

PBL

パフォーマンステスト

English 4skillsをどのように活用していますか

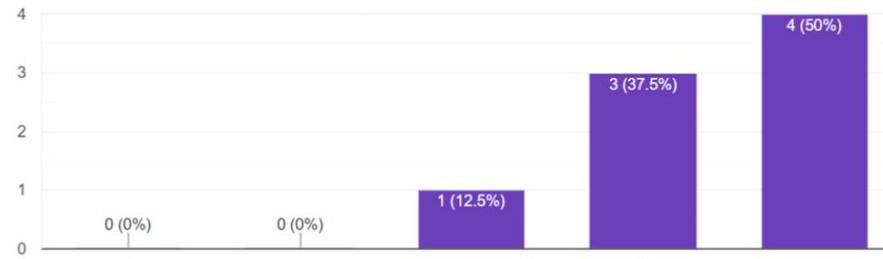


■ 補助事業において実施したサポート内容

●意見交換会の事後アンケート (n=8) : 講演・グループディスカッションの満足度「高」

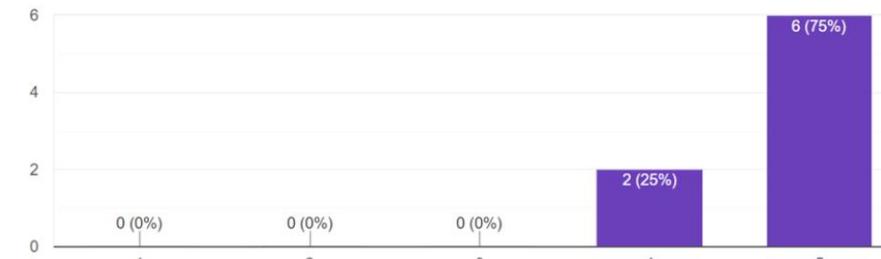
前半の基調講演（平井先生・入之内先生パネルディスカッション）はいかがでしたか

8件の回答



後半の意見交換（ブレイクアウトルームでのディスカッション）はいかがでしたか

8件の回答



上記回答の理由をお聞かせください

8件の回答

これからの英語教育の方向性について確認することができた。

新たな考え方の発見や、今やっていることが何につながるかを認識することができたから。

今の教育の流れといった概論的な所から話していただいたので、非常に分かりやすく、E4Sの利用の必然性に結びつけることができた。

他市町の実践を知ることができた

将来の英語教育と、4skillsのコラボレーションをイメージできたため。

ICTを活用して個別最適な指導をする必要性を強く感じました。

入之内先生のお話が非常に参考になりました。

すみません。第2部からの参加のため、真ん中にさせていただきます。

上記回答の理由をお聞かせください

7件の回答

質問や意見を述べることができ、また回答をいただくことができた。

全国の先生方との交流はとても貴重で、なかなか得られる経験ではないと思ったから。学ぶことがたくさんあったから。

京都市の実践発表が非常に面白く、とても勉強になった。自治体として取り組んでいる方の実践発表は、非常に面白く、大変参考になった。

周囲の学校ではこのアプリを使用していないため。具体的な使用方法がわかった。

いまだに活用しきれていない感があったのだが、他校の実践を聞いたり、課題に感じていることを聞くと今後どうしていったらよいか少し期待が持てたように感じました。

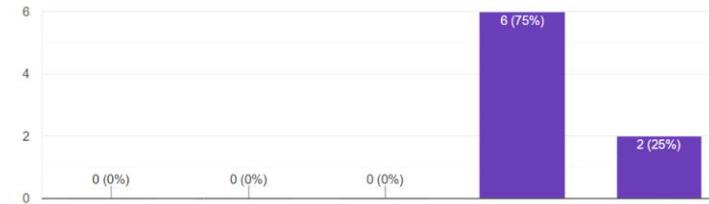
他の自治体での実践がわかりました。今後の参考にさせていただきます。

好事例だけでなく、気をつけるべきポイントについても教えていただくことができたから。

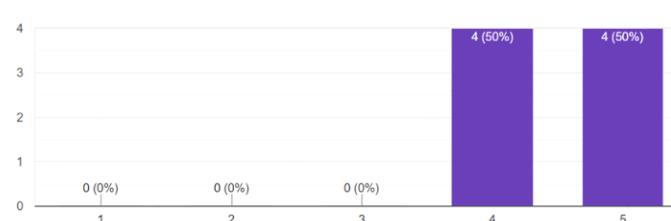
■ 補助事業において実施したサポート内容

●意見交換会の事後アンケート (n=8) : 新しい情報を吸収でき、ICT活用の推進に役立ちそう (総評)

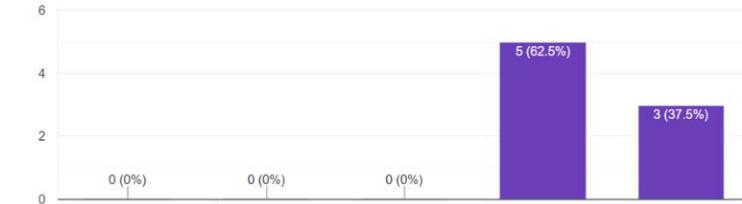
本日の意見交換会によって今後English 4skillsをよりうまく活用できそうですか
8件の回答



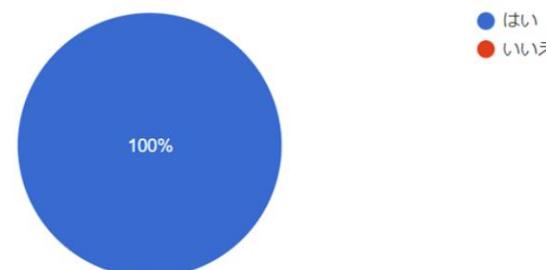
本日の意見交換会によって今後のICT×英語の活用促進に向けた気づきとなる新たな情報等を得られましたか?
8件の回答



今後、他の自治体や学校との交流の機会があれば参加したいと思いますか
8件の回答



今後の交流を目的に、本日の参加者に連絡先（メールアドレス）を共有してもよいですか
8件の回答



ドコモに対して、またはサービス（English 4skills）への要望やご意見があればお聞かせください
3件の回答

生徒や保護者、他教科の同僚、管理職に向けての説明資料などいただき、啓発・情報共有をしたい。

質問や、設備等何かあったときに素早く、丁寧に対応していただきとても感謝しています。今日のような交流会を開催していただき、本当にありがとうございました。

本日はありがとうございました。

●7自治体 18校の中学校へ導入 (English 4skills、Libry共通) ※一部除く

| 自治体名 | 学校名 | 利用人数 |
|--------------|----------------|----------|
| 肝付町教育委員会 | 肝付町立内之浦中学校 | 32名/36名※ |
| 阿武町教育委員会 | 阿武町立阿武中学校 | 92名 |
| つくばみらい市教育委員会 | つくばみらい市立伊奈中学校 | 552名 |
| つくばみらい市教育委員会 | つくばみらい市立伊奈東中学校 | 205名 |
| つくばみらい市教育委員会 | つくばみらい市立谷和原中学校 | 407名 |
| つくばみらい市教育委員会 | つくばみらい市立小絹中学校 | 270名 |
| 安芸太田町教育委員会 | 安芸太田町立加計中学校 | 62名 |
| 安芸太田町教育委員会 | 安芸太田町立安芸太田中学校 | 53名 |
| 士別市教育委員会 | 士別市立士別中学校 | 221名 |

※English 4skills利用32名、Libry利用36名

| 自治体名 | 学校名 | 利用人数 |
|-----------|-------------|------|
| 枚方市教育委員会 | 枚方市立枚方中学校 | 596名 |
| 枚方市教育委員会 | 枚方市立渚西中学校 | 287名 |
| 枚方市教育委員会 | 枚方市立東香里中学校 | 705名 |
| 龍ヶ崎市教育委員会 | 龍ヶ崎市立愛宕中学校 | 208名 |
| 龍ヶ崎市教育委員会 | 龍ヶ崎市立城南中学校 | 178名 |
| 龍ヶ崎市教育委員会 | 龍ヶ崎市立長山中学校 | 267名 |
| 龍ヶ崎市教育委員会 | 龍ヶ崎市立城西中学校 | 340名 |
| 龍ヶ崎市教育委員会 | 龍ヶ崎市立中根台中学校 | 325名 |
| 龍ヶ崎市教育委員会 | 龍ヶ崎市立城ノ内中学校 | 727名 |

(参考) NTTドコモ プレスリリース

▼2021/8/24

https://www.nttdocomo.co.jp/binary/pdf/info/news_release/topics_210824_00.pdf

▼2020/8/13

https://www.nttdocomo.co.jp/binary/pdf/info/news_release/topics_200813_00.pdf

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

● 約25万のトレーニング取組実績（うち正答率60.3%）

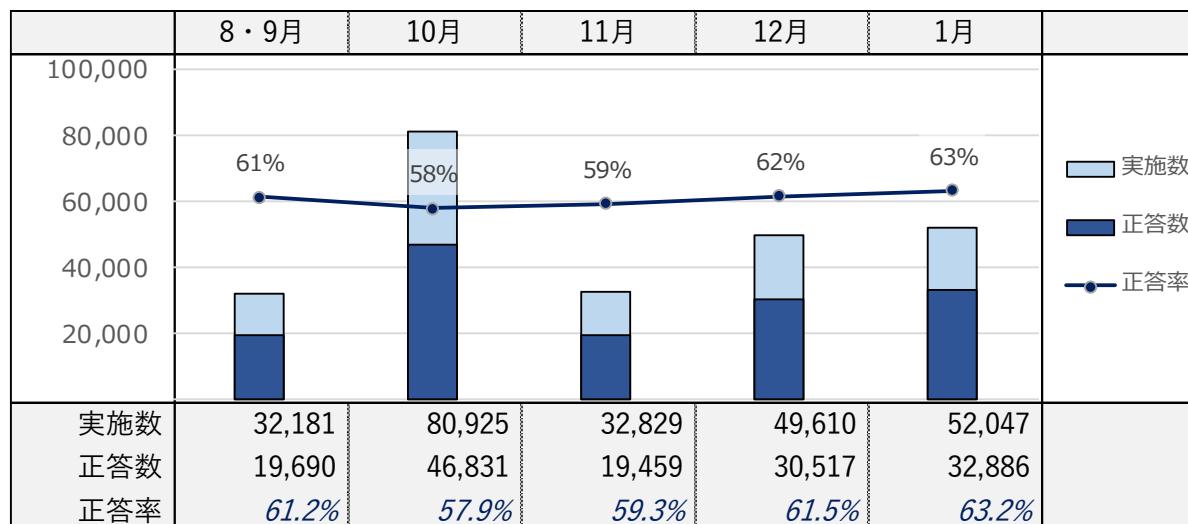
トレーニング 取組状況 (コンソーシアムサービス別)

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| コンソーシアムサービス名 | 学校数 | 全体 | | 1人当たり平均 | | 正答率 |
|------------------------------|-----|-----------|-----------|---------|------|-------|
| | | 実施数 | 正答数 | 実施数 | 正答数 | |
| EdTech実証校 計 | 112 | 1,666,368 | 1,038,467 | 59.6 | 37.1 | 62.3% |
| English 4skills × DONGRI® | 87 | 1,381,310 | 867,081 | 62.3 | 39.1 | 62.8% |
| English 4skills × Libry | 18 | 247,592 | 149,383 | 48.3 | 29.1 | 60.3% |
| English 4skills × スクールライフノート | 7 | 37,466 | 22,003 | 57.5 | 33.7 | 58.7% |

トレーニング実施数,正答率 [English 4skills × Libry利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

● 約25万のトレーニング実績のうち、技能別にみると「Writing」が約10万と特に活用が多い

技能別トレーニング 取組状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| コンソーシアムサービス名 | 総実施数 | | | | | | 1人当たり平均実施数 | | | | | |
|------------------------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|---------|------------|----------|---------|-----------|---------|------|
| | 全技能 | Speaking | Writing | Listening | Reading | 文法 | 全技能 | Speaking | Writing | Listening | Reading | 文法 |
| EdTech実証校 計 | 1,666,368 | 294,029 | 514,096 | 113,896 | 377,778 | 366,569 | 59.6 | 10.5 | 18.4 | 4.1 | 13.5 | 13.1 |
| English 4skills × DONGRI® | 1,381,310 | 261,598 | 394,843 | 100,102 | 314,964 | 309,803 | 62.3 | 11.8 | 17.8 | 4.5 | 14.2 | 14.0 |
| English 4skills × Libry | 247,592 | 26,707 | 103,489 | 11,604 | 55,914 | 49,878 | 48.3 | 5.2 | 20.2 | 2.3 | 10.9 | 9.7 |
| English 4skills × スクールライフノート | 37,466 | 5,724 | 15,764 | 2,190 | 6,900 | 6,888 | 57.5 | 8.8 | 24.2 | 3.4 | 10.6 | 10.6 |

技能別トレーニング 取組状況 [English 4skills × DONGRI®利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| | 全技能 | Speaking | Writing | Listening | Reading | 文法 |
|------|---------|----------|---------|-----------|---------|--------|
| 全期間計 | 247,592 | 26,707 | 103,489 | 11,604 | 55,914 | 49,878 |
| 8・9月 | 32,181 | 2,933 | 14,192 | 1,759 | 7,068 | 6,229 |
| 10月 | 80,925 | 7,514 | 33,100 | 3,556 | 19,859 | 16,896 |
| 11月 | 32,829 | 3,587 | 16,032 | 1,107 | 6,640 | 5,463 |
| 12月 | 49,610 | 6,207 | 20,227 | 1,960 | 10,407 | 10,809 |
| 1月 | 52,047 | 6,466 | 19,938 | 3,222 | 11,940 | 10,481 |

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

● 約34万の課題配信実績（うち正答率は48.2%）

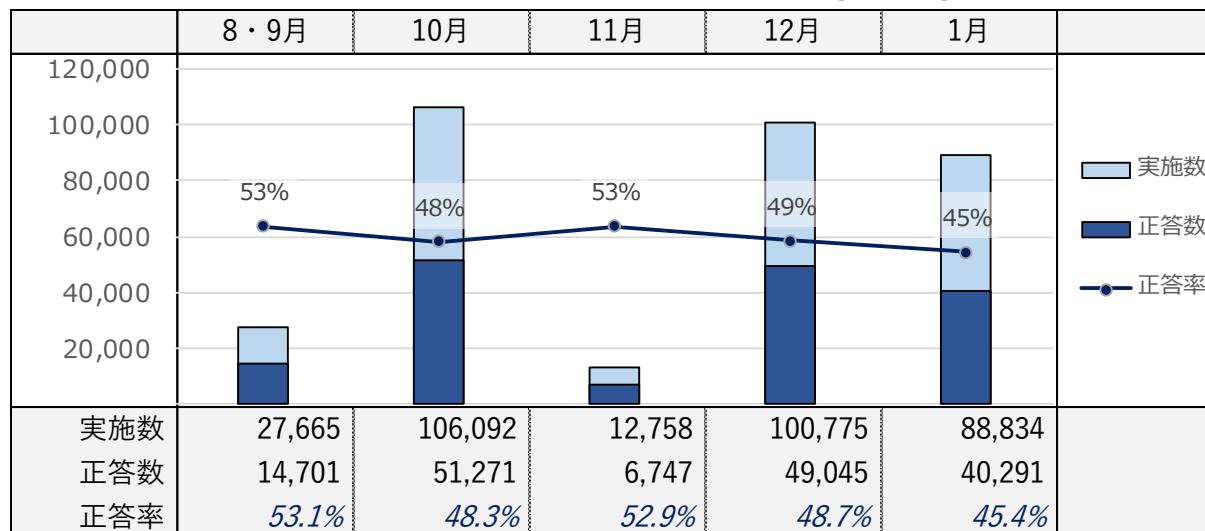
課題配信 取組状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| コンソーシアムサービス名 | 学校数 | 全体 | | 1人当たり平均 | | 正答率 |
|------------------------------|-----|-----------|---------|---------|------|-------|
| | | 実施数 | 正答数 | 実施数 | 正答数 | |
| EdTech実証校 計 | 112 | 1,648,573 | 847,101 | 59.0 | 30.3 | 51.4% |
| English 4skills × DONGRI® | 87 | 1,229,351 | 644,180 | 55.4 | 29.0 | 52.4% |
| English 4skills × Libry | 18 | 336,124 | 162,055 | 65.5 | 31.6 | 48.2% |
| English 4skills × スクールライフノート | 7 | 83,098 | 40,866 | 127.5 | 62.7 | 49.2% |

課題配信実施数,正答率 [English 4skills × Libry利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

● 約34万の課題配信実績のうち、技能別にみると「Listening」が約11万と特に活用が多い

課題配信 技能別取組状況 (コンソーシアムサービス別)

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| コンソーシアムサービス名 | 総実施数 | | | | | | 1人当たり平均実施数 | | | | | |
|------------------------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|---------|------------|----------|---------|-----------|---------|-------|
| | 全技能 | Speaking | Writing | Listening | Reading | 文法・単語 | 全技能 | Speaking | Writing | Listening | Reading | 文法・単語 |
| EdTech実証校 計 | 1,648,573 | 229,245 | 252,919 | 525,368 | 270,565 | 370,476 | 59.0 | 8.2 | 9.0 | 18.8 | 9.7 | 13.3 |
| English 4skills × DONGRI® | 1,229,351 | 157,089 | 182,778 | 377,960 | 198,310 | 313,214 | 55.4 | 7.1 | 8.2 | 17.0 | 8.9 | 14.1 |
| English 4skills × Libry | 336,124 | 53,416 | 54,429 | 114,556 | 57,278 | 56,445 | 65.5 | 10.4 | 10.6 | 22.3 | 11.2 | 11.0 |
| English 4skills × スクールライフノート | 83,098 | 18,740 | 15,712 | 32,852 | 14,977 | 817 | 127.5 | 28.7 | 24.1 | 50.4 | 23.0 | 1.3 |

課題配信 技能別取組状況 [English 4skills × Libry利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| | 全技能 | Speaking | Writing | Listening | Reading | 文法・単語 |
|------|---------|----------|---------|-----------|---------|--------|
| 全期間計 | 336,124 | 53,416 | 54,429 | 114,556 | 57,278 | 56,445 |
| 8・9月 | 27,665 | 3,422 | 7,087 | 11,672 | 2,932 | 2,552 |
| 10月 | 106,092 | 19,216 | 19,509 | 44,688 | 14,676 | 8,003 |
| 11月 | 12,758 | 2,433 | 2,454 | 4,482 | 1,290 | 2,099 |
| 12月 | 100,775 | 16,624 | 15,325 | 26,012 | 19,774 | 23,040 |
| 1月 | 88,834 | 11,721 | 10,054 | 27,702 | 18,606 | 20,751 |

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

●課題配信種別にみると、各技能別・用途別に配信可能なトレーニング・テストの活用が多い

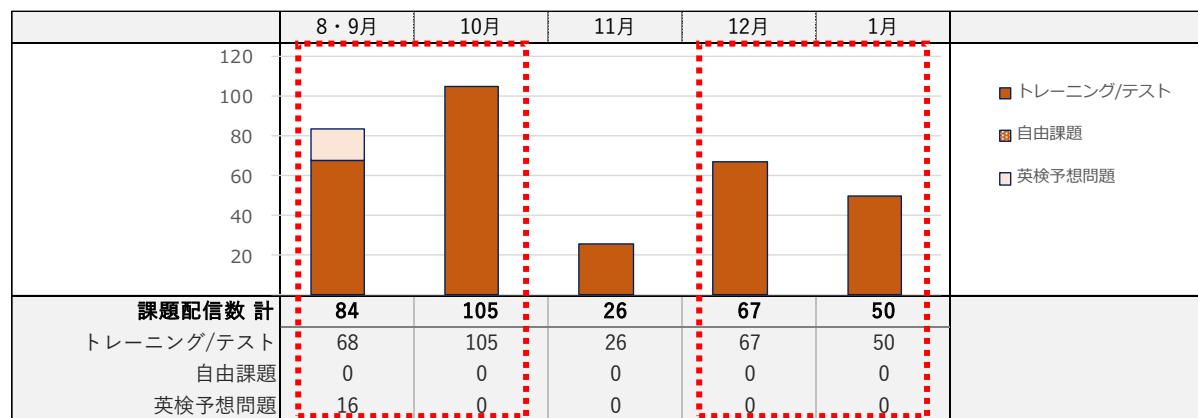
課題配信状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

| コンソーシアムサービス名 | 学校数 | 課題配信数計 | トレーニング テスト | 自由課題 | 英検予想問題 |
|------------------------------|-----|--------|---------------|------|--------|
| EdTech実証校 計 | 112 | 1,596 | 1,500 | 1 | 95 |
| English 4skills × DONGRI® | 87 | 1,148 | 1,092 | 0 | 56 |
| English 4skills × Libry | 18 | 332 | 316 | 0 | 16 |
| English 4skills × スクールライフノート | 7 | 116 | 92 | 1 | 23 |

課題配信状況 [English 4skills × Libry利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23



※事業実施の前半と後半に積極的に課題配信をご利用いただけるよう促進を実施した期間

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【当初想定した課題に対する解決】

①遠隔・オンラインの学習環境への対応

(生徒) 先生からの宿題や冬休み課題の時も、自分が好きな時に好きな時間で学習ができた。

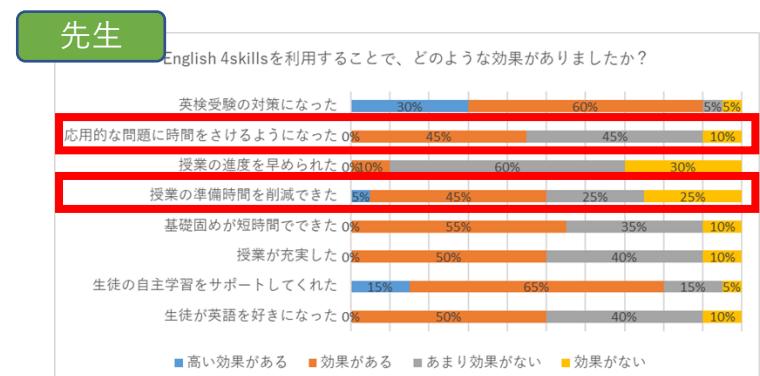
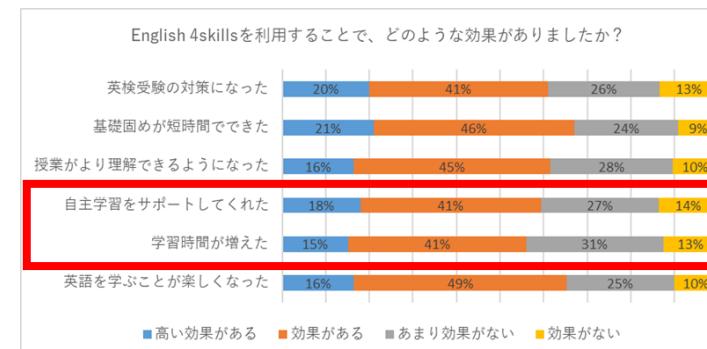
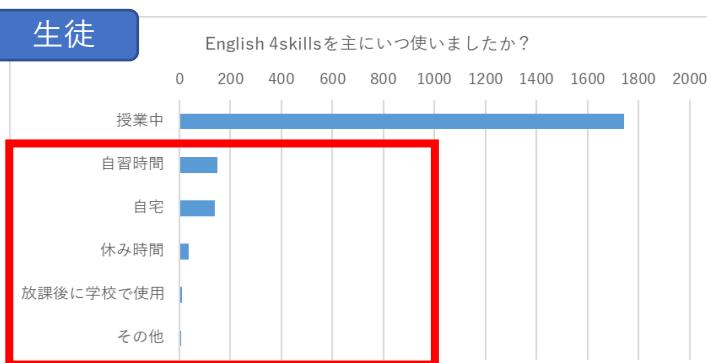
(先生) 学校の授業中に配信した課題を、時間内に解き終わることができなかった生徒が、家庭でも続きを解き進めてくれ、また、その解答を教師側でも遠隔ですぐに確認することができた。

※2022年1月実施アンケートの自由記述コメントより一部抜粋

●生徒：実証校の中には端末持ち帰りNGの学校もあった中でも自宅利用の回答が多く、学習時間が増えたという回答が半数以上得られた。

●先生：E4sを通じた遠隔学習により授業時間の使い方も良い変化があった旨の回答が得られた。

☞①の課題に対して、生徒・先生双方で一定の効果が確認できた。



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【当初想定した課題に対する解決】

②個別最適な学習への対応

(生徒) 自分の苦手な話すトレーニングも一人で練習ができてすぐ判定も出るので取り組みやすかった。
また、ゲーム感覚で楽しみながら解き進められて、気づくと目標以外のレベルにも挑戦していた。

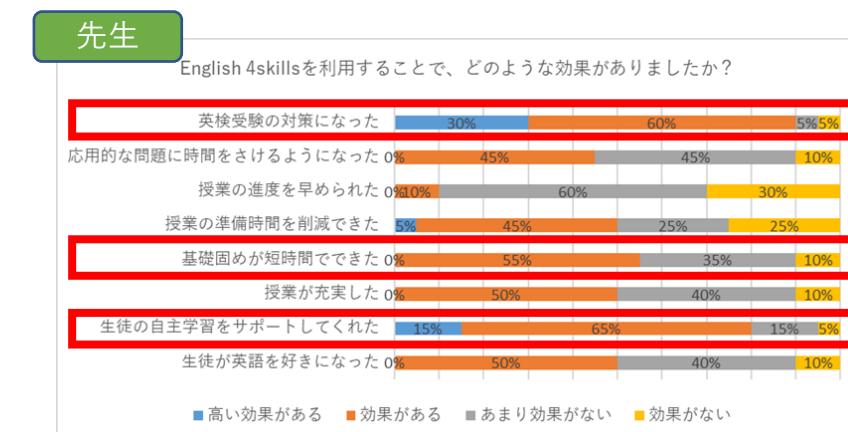
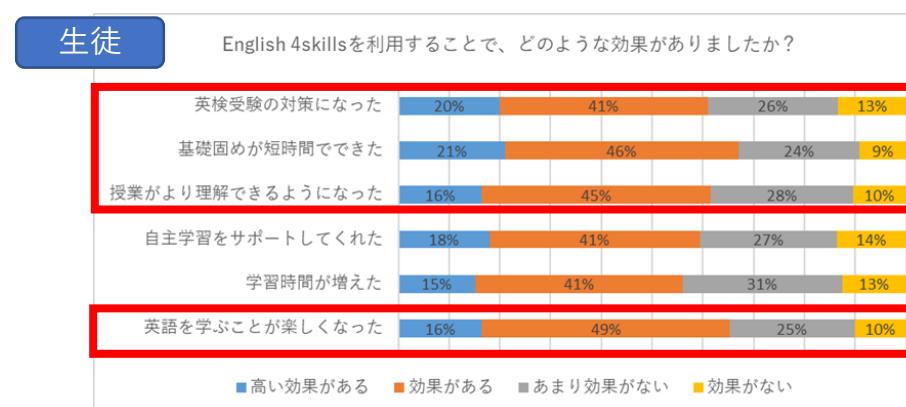
(先生) 生徒が自分で学習する級を選べるので学習状況に応じた個別最適な学びにつなげることができた。
また、「アダプティブ」配信活用で、英語が苦手な生徒も無理なく前向きに課題に取り組めており、特に英検取得をめざす生徒たちは自分の目標に向かい、積極的に取り組んでいた。

※2022年1月実施アンケートの自由記述コメントより一部抜粋

●生徒：基礎学習と理解促進など、自身の目標や進度に応じた学習に繋がったとされる回答が6割以上。

●先生：生徒の自主学習サポートツールとして役立った旨の回答を8割以上の先生から得た。

②の課題に対して、生徒・先生双方で高い効果が確認できた。



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【当初想定した課題に対する解決】

③先生の働き方の改善

(先生) Speakingは教師が教室に1人の場合、生徒一人一人個別に確認できる時間が限られていたが、English 4skills を活用すれば、教員の負担なく生徒個別対応の時間を確保できとても助かった。Listeningに関しては、音源探しや録音時間が不要となり、教材準備の大幅な時間軽減につながった。

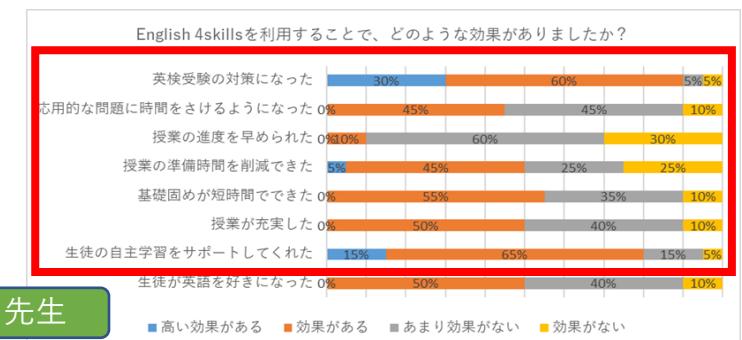
(先生) 一斉に課題配信する場合、設定が非常に簡単でありがたい。また、「アダプティブ」配信することで生徒の状況に合った課題配信ができるため、多くの種類の課題を作る必要がなくなった。特にSpeakingやListeningの課題作成が大変だったが、English 4skillsの導入で負担が軽減した。

(先生) 課題の提出状況や解答内容の確認にも役立っており、生徒の学習進捗状況も一目で分かりやすく、集計などを行わなくても済む。

※2022年1月実施アンケートの自由記述コメントより一部抜粋

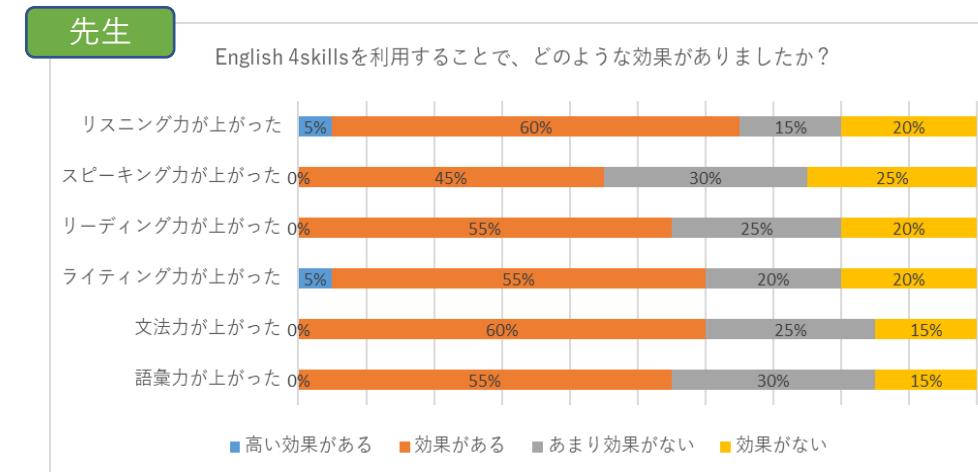
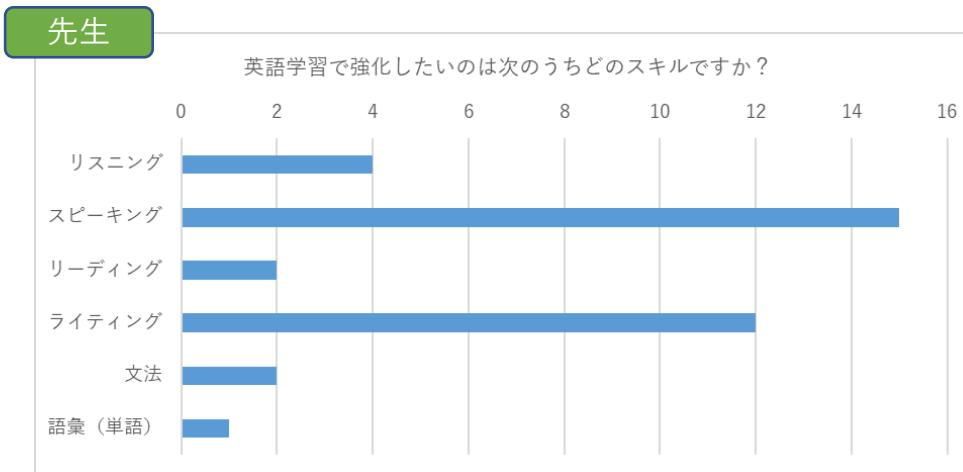
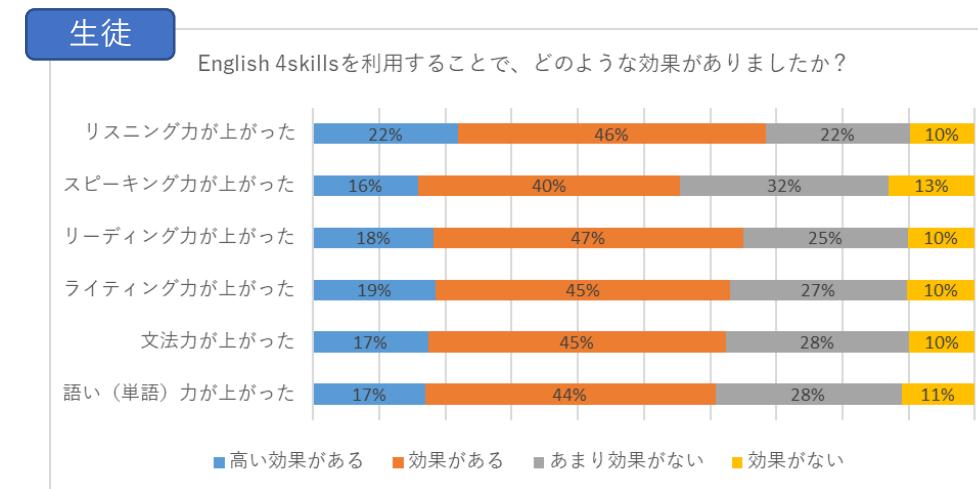
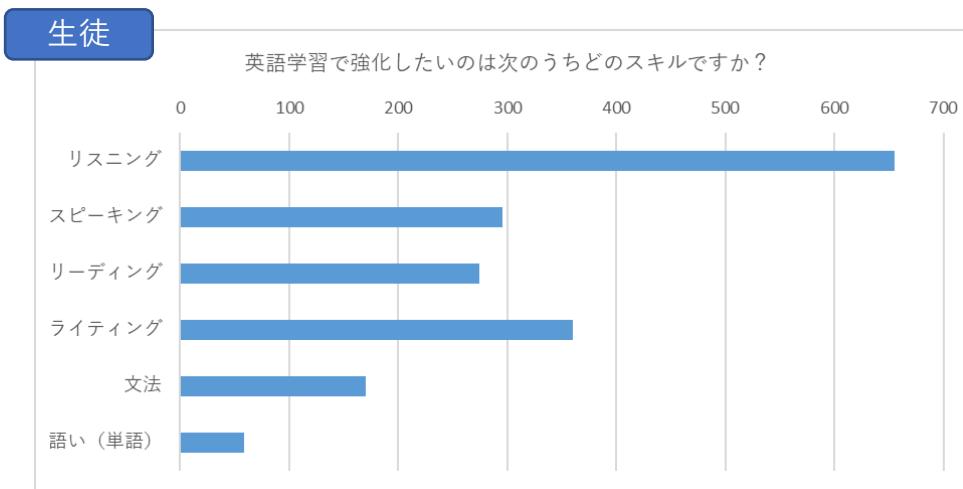
●先生：負担の大きかった教材の作成やその準備時間、限られた時間内に生徒一人一人の状況確認を行う時間や負担が軽減された旨の自由記述回答が多かった。

③の課題に対して高い効果が確認できた。



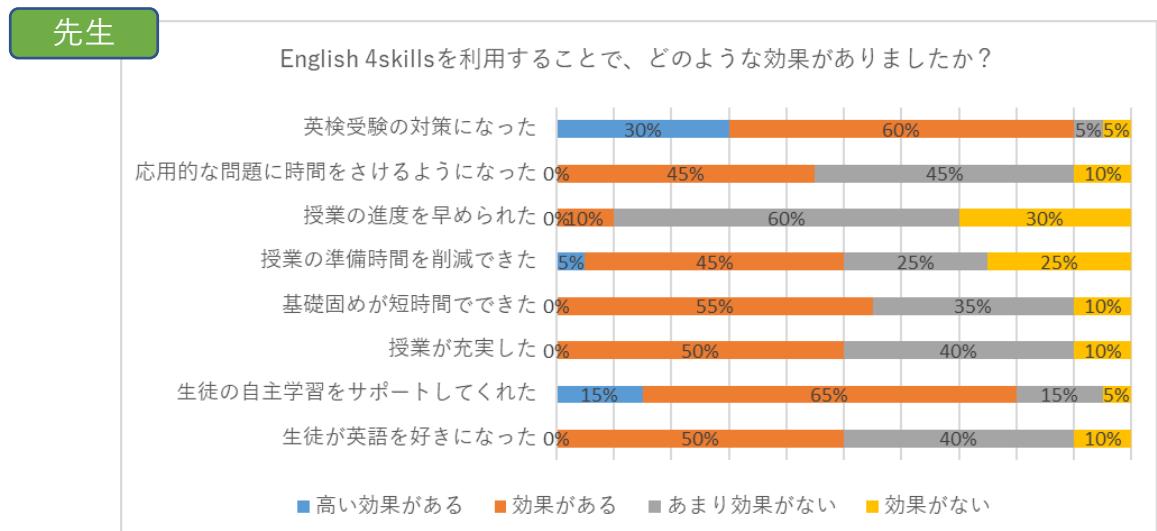
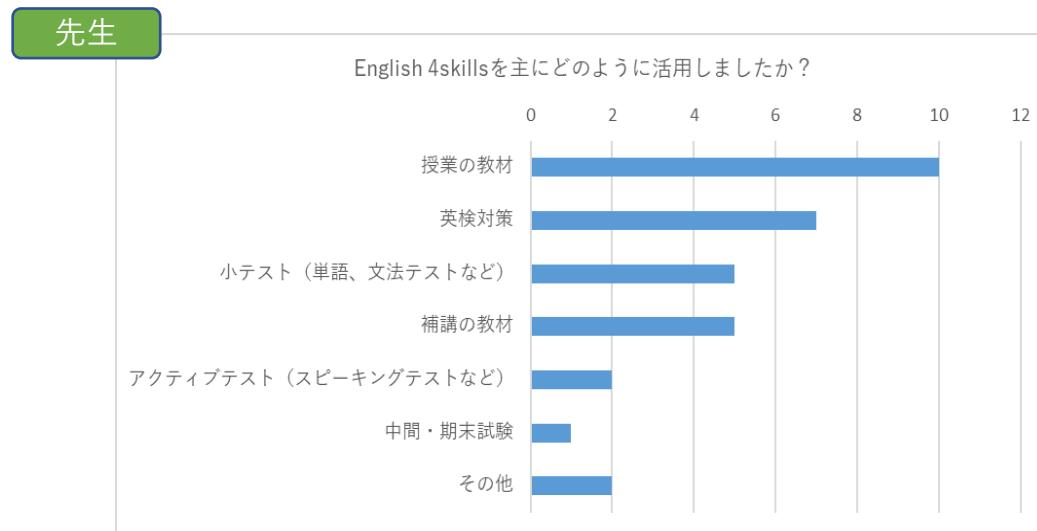
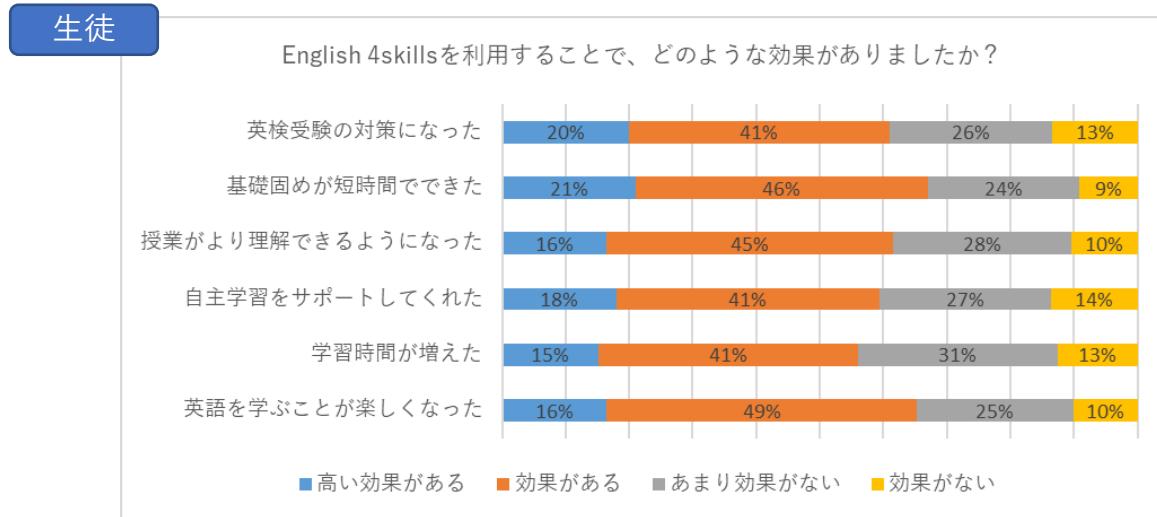
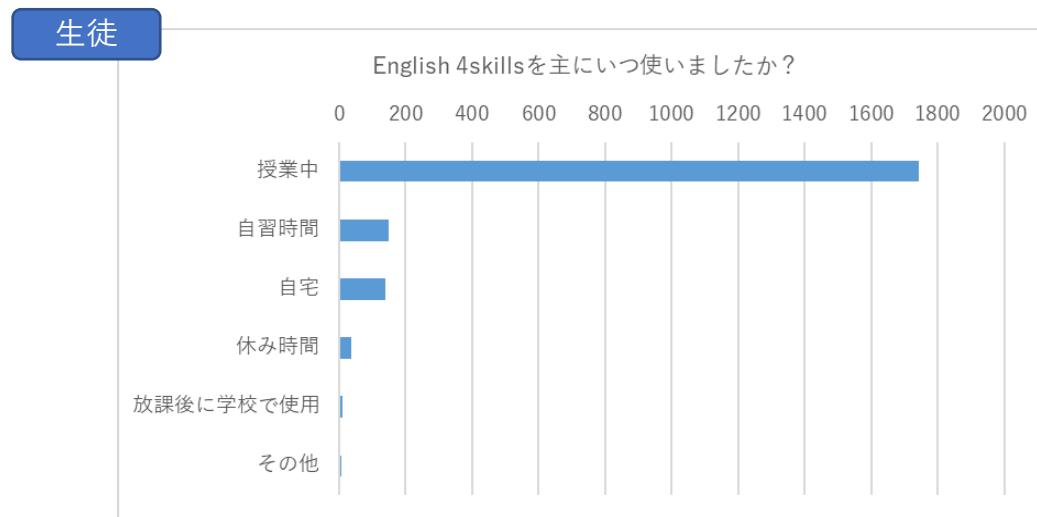
■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

●生徒・先生ともに半数以上が「各技能のスキル強化に一定の効果あり」と回答



■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

●授業利用以外にも、生徒・先生ともに半数以上が「サポートツールとして一定の効果あり」と回答

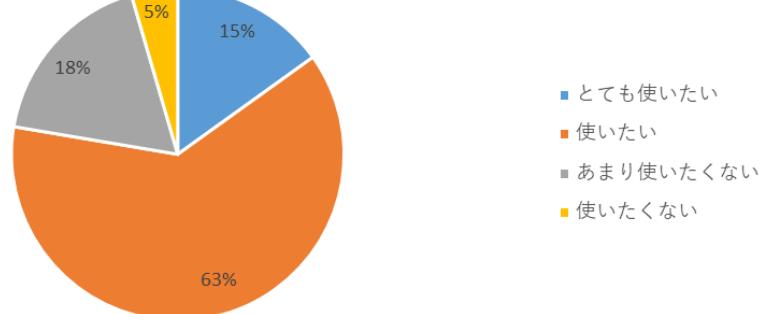


■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

●生徒・先生とともに約7割が、「今後もEnglish 4skillsを継続的に使用したい」と回答

生徒

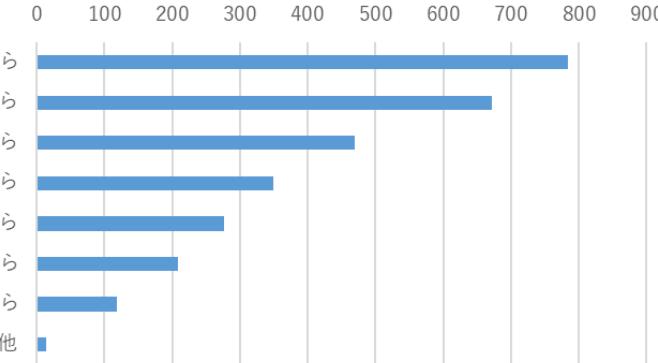
今後もEnglish 4skillsを使いたいですか？



生徒

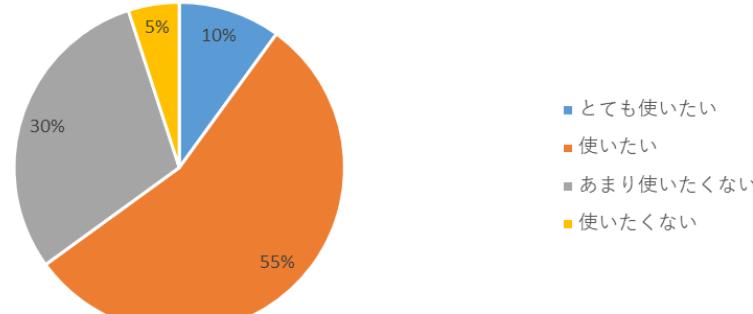
「とても使いたい」「使いたい」と答えた方に伺います。

その主な理由を教えてください。



先生

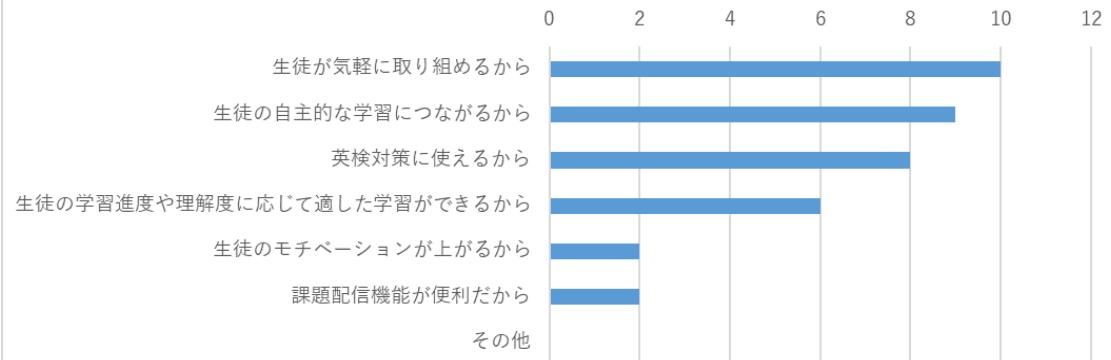
今後もEnglish 4skillsを使いたいですか？



先生

「とても使いたい」「使いたい」と答えた方に伺います。

その主な理由を教えてください。



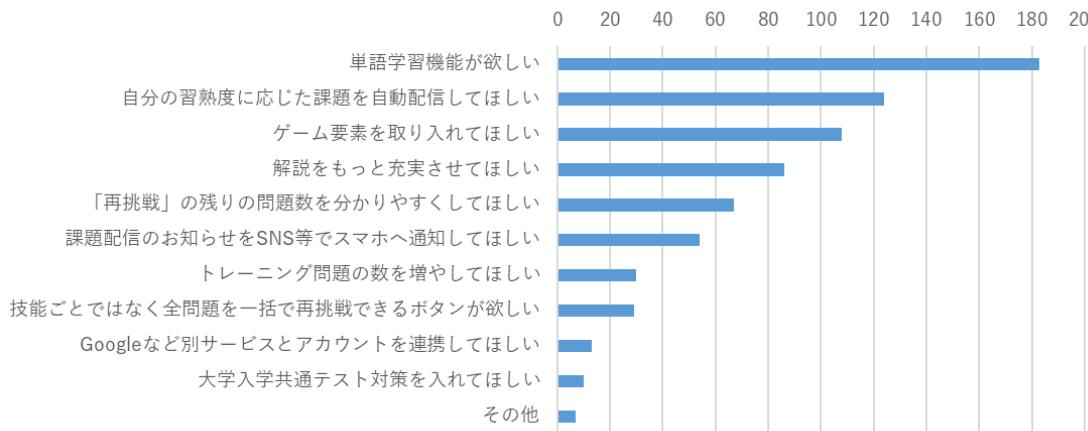
■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

●生徒は学習意欲の観点から、“単語機能”や“ゲーム要素の取り入れ”への要望が多い

●先生は授業活用や負担軽減の観点から、“教科書連動”や“解説の充実”、自動配信等の要望が多い

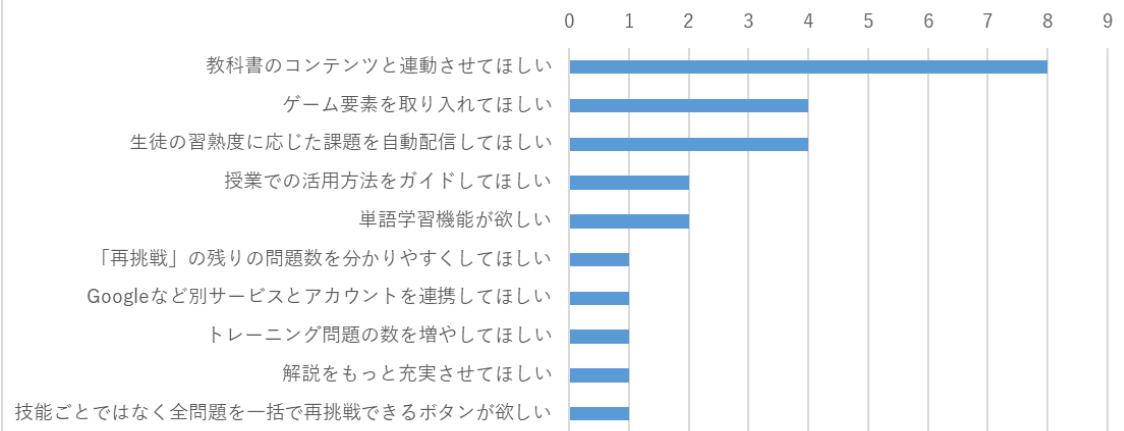
生徒

どういったアプリ機能、サービス内容であればもっと使いたいと思いますか？



先生

どういったアプリ機能、サービス内容であればもっと使いたいと思いますか？



本実証で得られた全国の生徒、先生の貴重なご意見を更なる機能拡充とサービス品質改善に繋げていく

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

【課題（期間/体制面）】

1. 公募要領発出から申請期間がタイトで、事業者↔自治体↔学校間の実証計画に対する合意形成が不十分なケースや当事者ごとに認識のバラつきがあり、事業者から積極的な導入サポートが難しいケースあり
2. コロナ影響による変則的な予定変更だけでなく、導入先によってICT支援員有無やICT活用キーマン先生の有無にも左右され、コンソーシアムで提供する複数ツールの同時並行での活用が難しいケースあり

改善策→

- 自治体+学校との3者による次年度を見据えた導入前の綿密な実証計画すり合わせ
- ツール特性とサポート範囲を踏まえた実証校選定、合意形成、実証取組みの優先順位引き上げ
- 3者定例会開催による伴走（進捗状況確認・振り返り、課題洗い出し、事例共有等…）

【課題（環境/運用面）】

1. PCやタブレットが整備されていても、持ち帰り禁止となっていることで授業などの在校時ののみの限定期的な利用に制限され、宿題利用が不可であったり、児童・生徒の自発的な学びの機会を阻害するケースあり
2. 音源や発話などの音声を利用する英語という教科性質上も、イヤホンやヘッドホンが未配備（配備遅れ含む）で、ツールの一部しか利用が促せないケースあり

改善策→

- 持ち帰りの許可をいただくか、難しい場合は校内での朝学習などの授業以外でのICT活用時間を拡大し、個別最適な学びの機会を増やす柔軟な対応を働きかけ
- 公平性担保のためにも、必要機器としてイヤホンやヘッドホン配備を促しつつ、すぐの改善が至らない場合は、実証期間中のみ事業者貸与等でツールをフル活用できるようにサポート

■ 会社概要

■社名

株式会社NTTドコモ
NTT DOCOMO, INC.



■代表取締役社長 井伊 基之

■所在地 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー

■資本金 949,679 (百万円) (2021年3月31日現在)

■従業員数 8,433名 (当社グループ28,113名) (2021年3月31日現在)

■主な事業内容

<通信事業>

携帯電話サービス (5Gサービス、LTE (Xi) サービス、FOMAサービス) 、光ブロードバンドサービス、衛星電話サービス、国際サービス、各サービスの端末機器販売など

<スマートライフ事業>

動画配信・音楽配信・電子書籍サービス等のdマーケットを通じたサービス、金融・決済サービス、ショッピングサービス、生活関連サービスなど

<その他の事業>

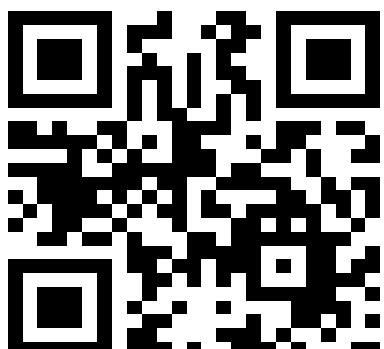
ケータイ補償サービス、法人IoT、システム開発・販売・保守受託など

■ホームページ

<https://www.nttdocomo.co.jp/>

■English 4skills サービス概要、操作方法などに関するお問い合わせ先

- ・ドコモスマートホームセンター 0120-085-360 (9:00-20:00 年中無休)
- ・English 4skills webサイト <https://e4skills.com/> (お問い合わせフォームより)



【EdTech導入補助金2021活用による成果】

- 日頃、自社のみで行うツール提案も、コンソーシアムならではの複数企業・ツールと連携した提案活動により、新規・既存顧客含め新たな切り口と課題の発見に繋がった。
- 収支観点からも各自治体や学校が要望する期間でトライアル利用、検証ができないケースも多いが補助金を活用することで、事業者も導入先も双方負担が軽減され、ツール検討に踏み出せ、最終的には次年度の予算確保・本格導入に繋がった。
- 補助金を活用してツールの利用校が増えることで見えてくる新たな課題（サービス性改善、保守運用強化の必要性等）も見え、自社ツールを見つめ直す機会に繋がった。

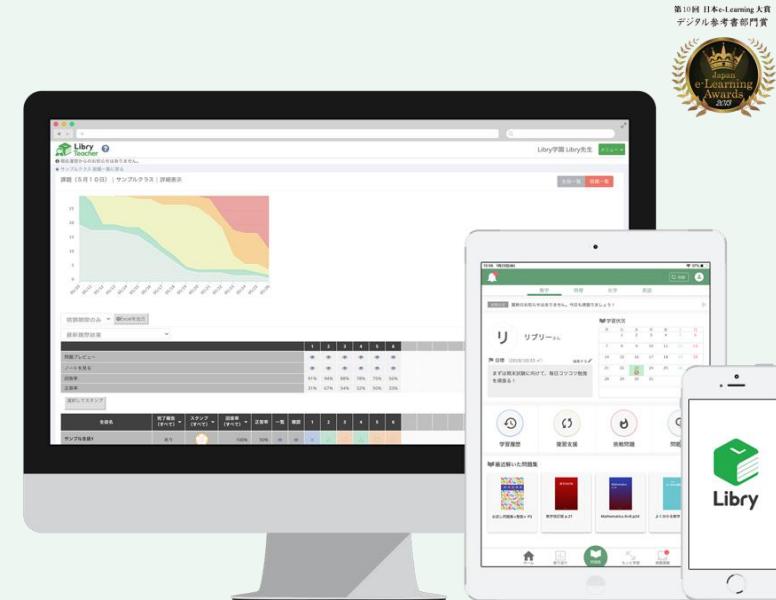
【EdTech導入補助金2021活用による課題】

- 2020、2021年度の補助金ともに夏以降の補助金採択で、ツール利用・検証が2学期以降にしか行えないが、次年度本格導入に向けた予算調整・提案は、実証が始まる前（1学期中）の時期には意思決定が必要な場合も多いため、議会付議を遅らせることが不可の場合は、有償契約化までの空白期間を発生させない新たな契約方法の整備や運用対処等、様々な切り口での検討が必要。

教科書・問題集・参考書をデジタル化し、生徒・教員双方に新しい学習体験を提供



- 全国**1000**校以上に提供！
- 対応書籍は**260**冊以上！
- 信頼ある**出版社**の教材をデジタル化！
- AIドリル機能**で個別最適化学習を実現！



(アダプティブラーニング)

生徒の 「**個別最適化学習**」 と先生の 「**働き方改革**」 を実現。

■ 学校等教育機関の抱えていた課題

学校からは以下の様な課題があると伺っておりました。

- ① (生徒の課題) 教材を用いてどう自主的に学べば良いか分からない。
- ② (先生の課題) 業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。
- ③ (生徒の課題) 授業で使う教材の量が非常に多く、嵩張る、等など。

【実際の声】

「(問題の演習方法について) いつも問題集を順に解くか、先生からの宿題を解いてます。演習量増やしたくても、それ以外に何を解けば良いのか自分では分からないので。」(生徒)

「もっと生徒の解答の癖の分析とか、正答率をみて課題を工夫しなきゃと思ってますが、正直宿題集めるとか作成するというところで手一杯で、それ以上はできていないです。」(先生)

「学校でも自習をしたいので学校の教科書と問題集をそれぞれの教科で持ち歩いてますが、部活の道具も合わせると嵩張るので『嫌だな』と思いながらいつも我慢しています。」(生徒)

■ 学校等教育機関の抱えていた課題

それに対して以下の通り対策をおき、導入決定いたしました。

- ① (生徒の課題) 教材を用いてどう自主的に学べば良いか分からず。
- ② (先生の課題) 業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。

→Libryのデータを基に生徒個別に課題を作成・配信。
また結果をLibryで確認してフォローを行うというPDCAサイクルを実行する（後述）。

- ③ (生徒の課題) 授業で使う教材の量が非常に多く、嵩張る。

→Libryにより、教科書・副教材をデジタル化。ICTツールがあれば閲覧可能にする。

先生から生徒への課題配信・回収を手軽に実現しました。



活用の流れ

1

先生はクラス全体に課題を配信。
生徒は家庭で演習を実施して、提出。

授業の中で課題を配信し、生徒には家庭で取り組んだノート写真と一緒に解答結果を提出（送信）してもらいました。

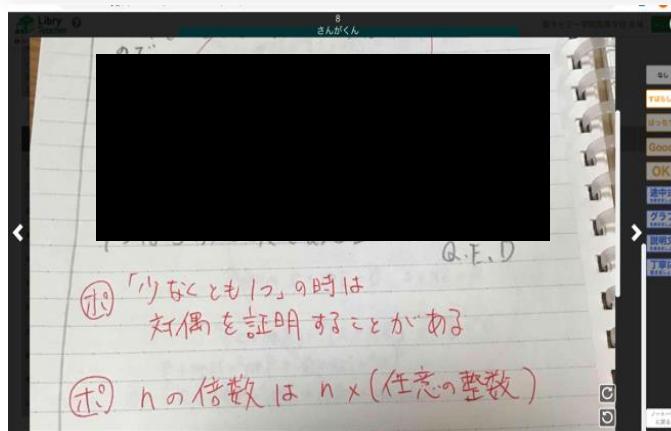
2

先生は生徒の解答・正誤状況をLibry上で確認。
必要に応じた追加課題配信を実施。

生徒が解答結果を入力してくれるだけで、手軽にクラス全体の正答率、個別の正誤状況がわかるので、個人ごとの情報を基に課題をカスタマイズ＆個別生徒のフォローを行いました（特に正答率低い生徒へのフォロー、追加課題の提示など）。

3

「個別最適化学習」と「先生の業務軽減」を実現！



※生徒のノート内容については黒抜きとさせていただきます。

■ 補助事業において実施したサポート内容

専任担当によるリモートでの導入・運用サポートを実施しました。

サポート内容



1

導入研修（本案件向けに特別に実施、有償）

導入にあたり、各学校の先生に対してオンライン研修を実施。Libryの基本的な使い方や効果的な利用方法などをご説明しつつ、質疑応答で導入に向けた懸念点の解消を行った。

2

導入後の定期サポートミーティング（通常サービス、無償）

各学校の先生と定期でミーティングを実施。実際に導入してお困り事が無いかを確認しつつ、Libryの活用データなどを提示して、学びがどう変化しているかを確認しつつ、より学びに活用いただける方法を提案行った。

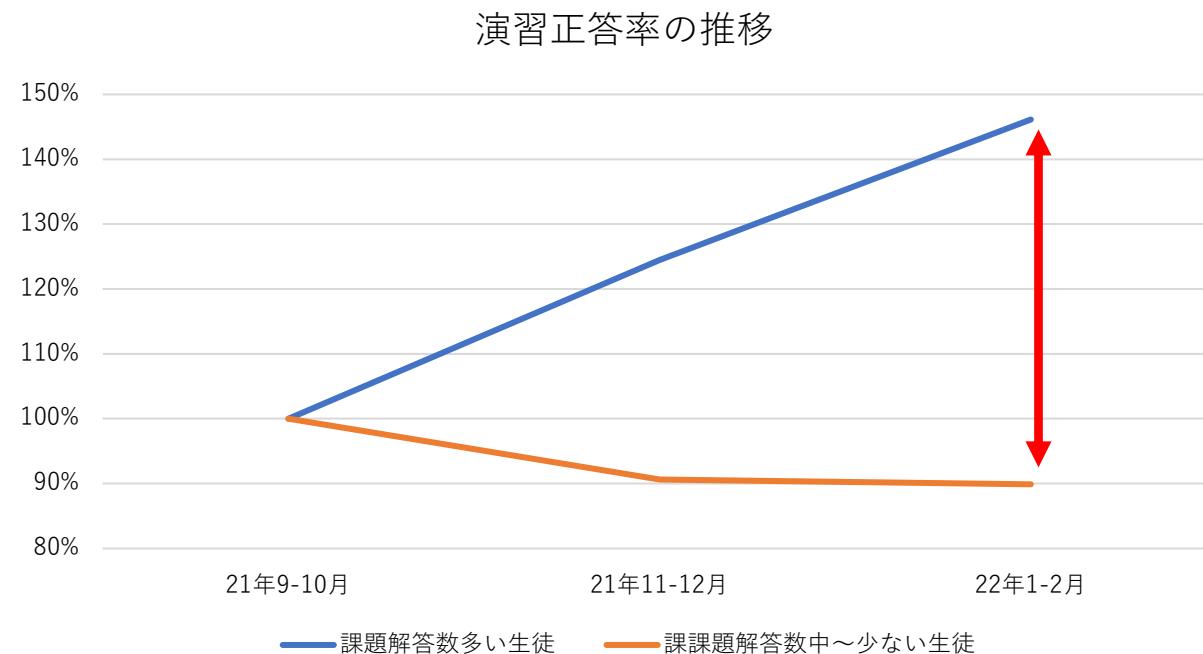
3

随時間合せ内容への対応（通常サービス、無償）

日々発生するトラブルやニーズに対して、担当より随時回答。必要に応じたオンラインサポートを実施して解決を行った。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察①

前記の指導方法を実施した学校について、特に課題を積極的に解いてくれている生徒の正答率の変化を確認。すると、その他の生徒と比べ正答率が向上した事がわかりました。



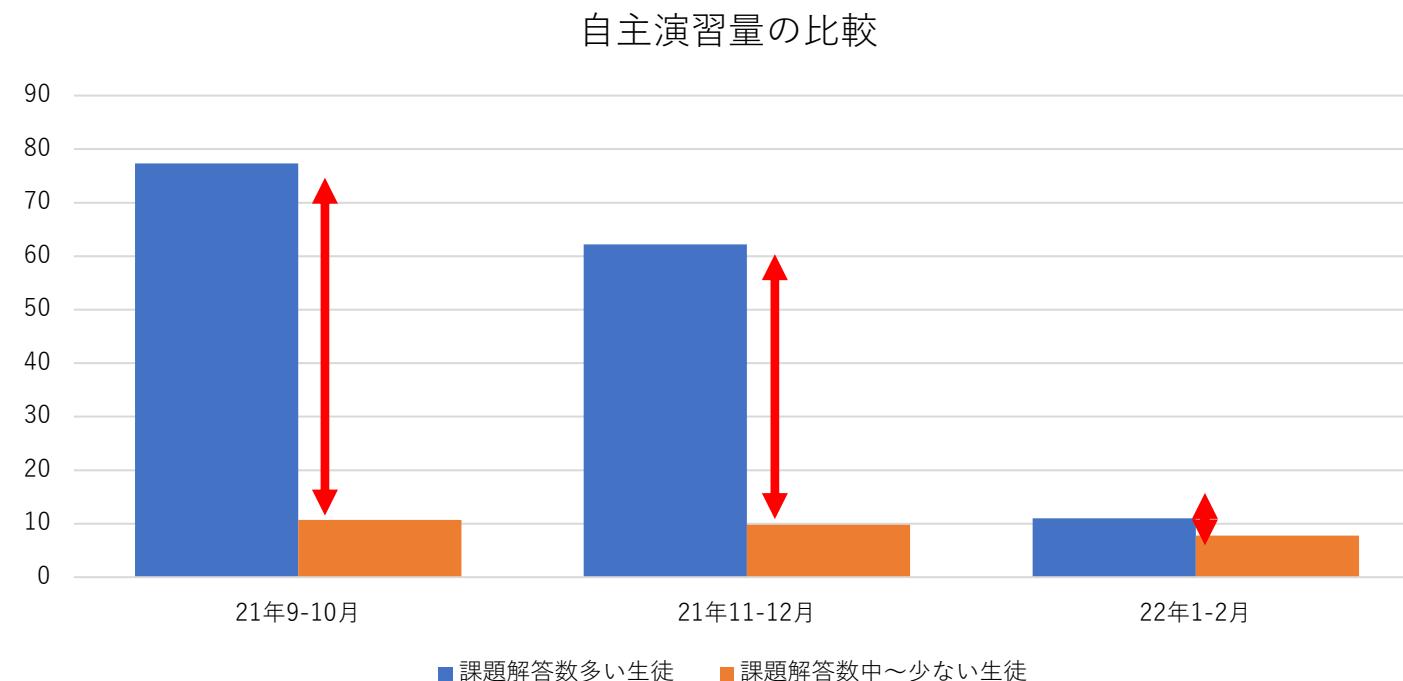
※21年9-10月段階の正答率を100%としたときの各期間の正答率の推移

※母数：Libryを用いた課題演習を実施いただけた学校の生徒130名

※解答数多い生徒：解答数TOP10の生徒 / 解答数中～少ない生徒：解答数TOP10の生徒以外

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察②

課題解答数多い生徒に対して「先生からの課題以外での自主演習量」を確認。すると各期間においてその他の生徒より自主演習量も多く、「先生からの課題演習を通じて苦手を認識、自分の演習に活かしている」と推測されます。



※22年1-2月について、課題解答数多い生徒の何名かはLibry内の教材の問題を解き終えており、Libryでの自主演習量が下がったもの

※母数：Libryを用いた課題演習を実施いただけた学校の生徒130名

※解答数多い生徒：解答数TOP10の生徒 / 解答数中～少ない生徒：解答数TOP10の生徒以外

以上を踏まえて、積極的にLibryを活用していただけた生徒については、学びの促進効果があったと考えております。

【再掲：導入時の課題】

- ① (生徒の課題) 教材を用いてどう自主的に学べば良いか分からぬ
- ② (先生の課題) 業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。

→Libryのデータを基に生徒個別に課題を作成・配信。

また結果をLibryで確認してフォローを行うというPDCAサイクルを実行する。

【活用結果】

- ・個別にカスタマイズした課題に対して、積極的に解いていただけた生徒は正答率向上の効果が見えた。
- ・それらの生徒は自主演習量も増えており、課題演習を通じて「何を学べばいいか」の理解度が高まり自主性を引き出せたものと推測される。

(③「教材が多く嵩張る」という生徒の課題は残念ながら解決できず)

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等(Libry)

先生・生徒からのコメントもポジティブ。他社製品と柔軟に組合わせる等、工夫して有効に活用をいただいていた。

生徒の学習状況が可視化されるようになり、どこに苦手が有るかが簡単にわかるようになりました。おかげで業務効率も上がり、助かっています。（先生）

朝、Libryで生徒が学習している姿を見ています。ICTも当初より使いこなせるようになってよかったです（先生）

問題集をタブレットで解くことができて、履歴がみられるのでテストのときに役立つと思う。（生徒）

自分の解いた問題量が見れて、今日はいっぱい解けたなと思いながら使ってます。（生徒）

以下の通り、学校・自治体・企業の連携をより良くしていくことが今後の円滑な導入・運用に必要なものと考えています。

【課題感と改善策】

1. 先生の積極活用に向けた課題：自治体のスタンスから、企業から学校に積極的な導入サポートを行えない例が有った。
→（改善策）自治体より、企業から学校への直接連絡・サポートを一律で認めていただく。それが出来ない地域では、導入に向けていつ・何を・だれが・どうやってサポートを行うか、自治体/企業で決める場を設けることを必須とする。
- 2.先生の積極活用に向けた課題：自治体の個人情報の取り扱いのスタンスから、システムに生徒名を登録できない等の例が有った。（システム上で名前が出ないのでどの生徒か分からず使いづらさを感じる）
→（改善策）自治体より、個人名登録の許可をいただく。それが出来ない地域では、それを早期に共有いただき、個人名を用いない運用を企業・学校間で構築する。
- 3.生徒の積極活用に向けた課題：自治体が端末の持ち帰りを禁止しており、生徒が自宅で自ら学ぶ為にICTツールが使えない例が多くみられた。
→（改善策）自治体より、持ち帰りの許可をいただく。それが出来ない地域では、それを早期に共有いただき、企業・学校間で自学をより柔軟にできる体制を作る（放課後の自習時間の設置など）。

■ 会社概要

<会社概要>

社名：株式会社Libry

代表取締役：後藤 匠

設立：2012年5月

所在地：〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル 4F

社員数：56名(2022年1月現在)

資本金：271,001,600円

売上高：94,424,270円 (21/2月期実績)

<Edtech導入補助金に関する問い合わせ先>

株式会社Libry 営業部 セールスグループマネージャー 古川 宏治

MAIL：k.furukawa@libry.jp

TEL：070-1443-0978